

さいくうあと通信

発行 明和町 齋宮跡・文化観光課
 (明和町大字馬之上 945 番地)
 電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133
 E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

明和町歴史的風致維持向上計画 に基づいた史跡齋宮跡の整備を進めています



平成26年度は齋宮駅北側に史跡公園口休憩所を建設し、3月19日にオープンしました。また、町道坂本齋宮線の一部に歩道と側溝をつけ、道幅を広げ、道路の一部をカラー舗装にし、ガードレール、カーブミラーも景観に配慮した色彩にしました。そして、長年の課題となっていました冠水対策工事も着手しました。他にも、史跡公園内の案内看板を増設し、散策していただきやすくするなど、史跡齋宮跡内の整備に力を入れました。

平成27年度も引き続き史跡齋宮跡内の道路のカラー舗装、冠水対策等の整備工事を進めるとともに、3棟の復元建物完成にむけ、史跡公園口休憩所や復元建物周辺の整備を進めます。

地域のみなさんが住みやすく、観光客の方に喜んでいただけるような史跡齋宮跡をめざして取り組んでまいります。引き続き、みなさんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



齋宮駅史跡公園口完成式典
 3月19日＝齋宮(サイクウ)にオープンしました！



鉄道沿線のフェンスを新調し芝生を植え、駅周辺の美化・緑化も進めています。



史跡内の案内看板がより充実しました。



伊勢街道沿いの歴史的建造物調査を行っています。



伊勢街道に関する聞き取り調査を行っています。

<明和町歴史的風致維持向上計画>

明和町では、平成20年11月4日に施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(通称：歴史まちづくり法)に基づき、平成23年度から「明和町歴史的風致維持向上計画」の策定に取り組み、国土交通省、文部科学省、農林水産省の3省から、平成24年6月6日に認定を受けました。歴史的風致維持向上計画は、これまでに49市町が認定されており、三重県では、亀山市に続き2番目の認定になります。

<歴史的風致とは>

歴史的風致とは、歴史まちづくり法第1条に「地域における固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されており、建造物(ハード)と人々の活動(ソフト)を合わせた概念です。

文化財レポート

前野のお頭神事

2015.2.11

前野のお頭神事は、旧正月15日(現在は2月11日)に、各家の悪霊を退散させ前野地区の家内安全と豊作を祈願する行事です。昭和59年(1984)2月23日に明和町の無形民俗文化財に指定されています。



口を大きく開き天狗に迫るオカシラ



県内には数多くの獅子舞がありますが、^{おかしらしんじ}「御頭神事」と呼ぶのは伊勢市周辺の宮川流域を中心とした地域だけです。獅子頭を「オカシラさん」と呼び神聖視する点が特徴です。前野では、神事を行う「ネギサン」を6軒(かつては7軒)の家が世襲しています。以前は3日間かけ夜も行われていたそうですが、生活様式の変化に伴い今年は11日の日中だけでした。

神事はネギサンと子役二人で構成され、オカシラ・後舞(子役)・天狗(子役)・^{はし}拜・^{さしずかた}指図方・^{がく}楽(太鼓)をそれぞれ担当します。指図方がお供えを持参した家の名前を読み、掛け声を入れ、楽が打たれるのに合せて、オカシラが舞います。楽が激しくなるとオカシラは天狗に迫るようにせりあがります。拜はお供え物を指図方に渡す盆をかかげ、うやうやく頭を下げます。地区の安泰を祈る姿が印象的でした。お供えをした各家に対しても同様に舞を行い、前野神社でも同様の舞を行います。



天狗

● 神事の起源 ●

道具箱の蓋には「^{てんぽう}天保七年(1836年)」の銘があります。また、『大字前野郷土誌』によれば、御頭の箱にも「^{えんきょう}延享二丑年(1745年)十一月吉日願主/間宮氏厚雄」と墨書され、神事当日の献立が書かれた「^{きょうほう}享保十六(1731年)」の銘が見られると記述されています。これらのことから神事は280年以上前野地区で大事に守られてきたといえます。